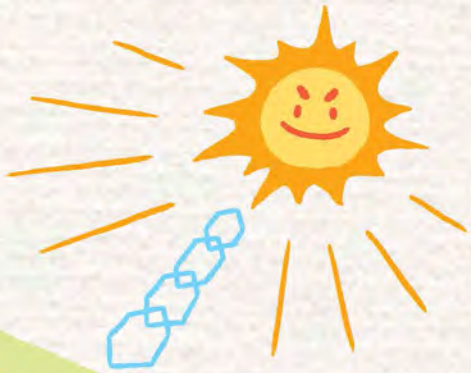
地球温暖化や異常気象で収穫量が減ってしまう

地球温暖化などの影響で農作物を作れる場所が変わったり、異常気象により大規模な干ばつなどが起きやすくなっています。異常気象が広い範囲で起きれば、農作物がうまく育たず、収穫量が大きく減ってしまう原因になります。



家畜の病気など、そのほかにも輸入に影響を与えることがある

鳥インフルエンザなど家畜の伝染病が起きると、感染が広がった国の肉の生産量に影響があります。また、食べものに害のあるものが混ざるなど食べものの安全に関わる問題が起きると、輸入が止まってしまうこともあります。

日本の食べもの生産パワーってどのくらい？

日本の食べものを供給する力は、「外国から輸入する力」・「国内で生産する力」・「備蓄」の3つの柱で支えられています。
そのうち、「国内で生産する力」のことを「食料自給力」といい、「日本の農林水産業は、最大でどのくらい食べものを生産できるパワーをもっているのか」を表しています。

日本の食べものを供給する力

- 外国から輸入する力
- 国内で生産する力
- 備蓄

＝

食料自給力

日本の農林水産業がもっている食べものを最大限生産するパワー

農作物

- 田んぼや畑、農業用の水路
- 農作物を作る技術
- 農業をする人

水産物

- 漁や養殖で最大限獲ってもいい魚や海藻の量
- 漁業をする人

「食料自給力指標」ってなに？

世界中で異常気象が起きたり、米・小麦など穀物の収穫量が伸び悩んだりしていることから、日本の食べものを供給する力を心配する声が高まっています。これからの日本の食べものについてみんなで考えるための目安として、「日本国内だけで最大どれだけの食べもの（カロリー）を生産できるのか」（＝食料自給力）を試算した「食料自給力指標」が生まれました。実際に使われている力と、使われていない“秘められた力”を合わせることで、日本国内にどのくらい食べものを生産するパワーがあるのかを表します。

花など食べもの以外の
農作物を作っている畑

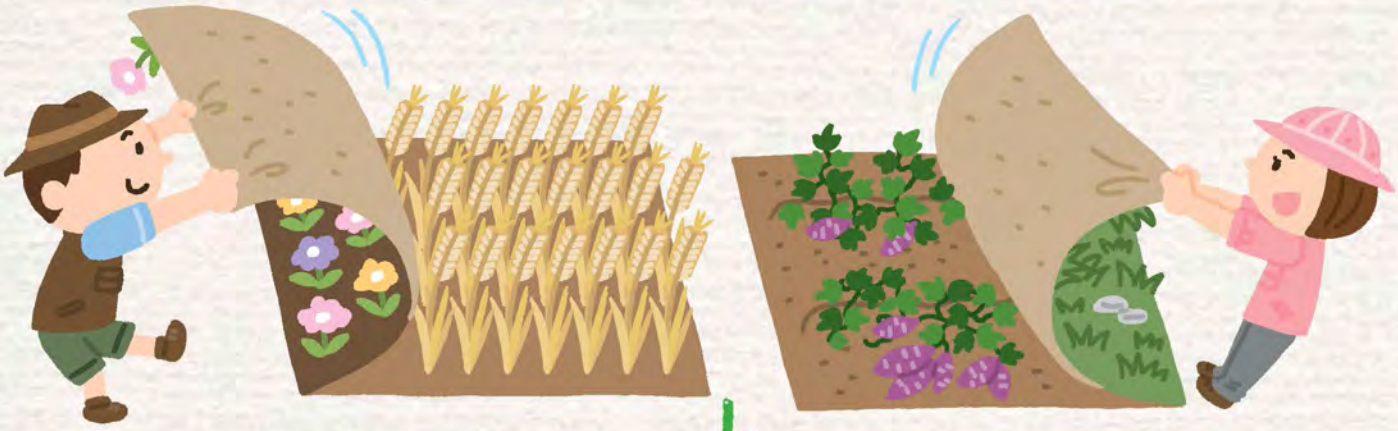
↓

もし食べものを作る
田んぼや畑に変えたら

田んぼや畑だったけれど、
今は何も作られていない土地

↓

もしもう一度食べものとなる
農作物を作付けしたら



↓

さらに、もし1年に2回作付けできる
田畑を最大限利用したら

↓

食料自給力指標

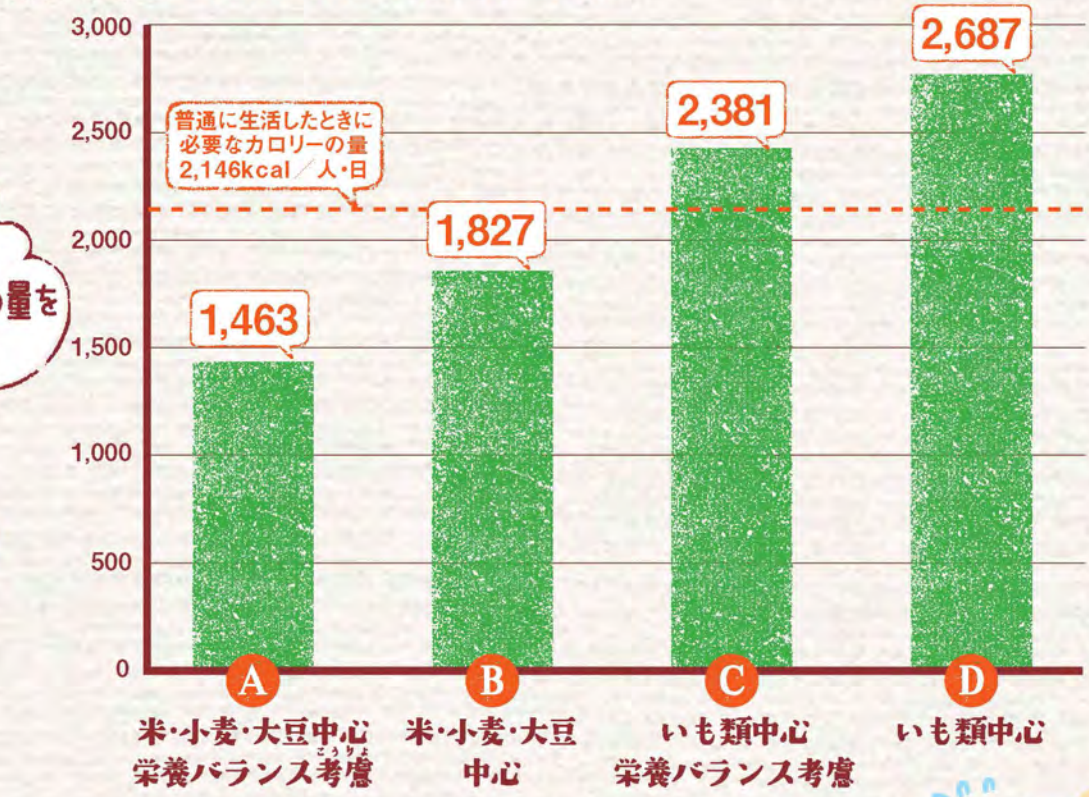
最大限生産することができる食べもの（カロリー）

土地の広さが同じでも、何を作付けするかで「食料自給力指標」は変わります。
作付けする農作物によって4つのパターンに分け、どんな違いがあるのか比べてみましょう。

「食料自給力」を数字で見るとこうなるよ！

食料自給力指標には、米などを中心に作る場合といも類を中心に作る場合を考え、
それぞれについて栄養バランスを考えるかどうかによって、4つのパターンを設けています。
作ることができるカロリーの量がどのように違うのか、確かめてみましょう。

■食料自給力指標（平成27年度）



AパターンとDパターンを比べてみると…

ちょっと待って！
食料自給力はだんだん下がっているんだよ！

食料自給率は近年国内で消費される量と生産される量が同じ割合で減っているので、
横ばいで推移しています。それに対して、食料自給力指標を過去からずっと計算すると、
食料自給力は年々下がっていることが分かります。農作物を作ることができる土地が減っていること、
面積当たりの収穫量が増えにくくなっていることなどが原因です。

■食料自給力指標の推移

食料自給力指標って、いざというときを考えて計算したものなの？

食料自給力指標は、食べものを生産するためのパワーがどのくらいあるかを知るために、
「もしも今は田んぼや畑として利用されていない土地も含め、米やいも類を中心に作ったら」
という仮定の下で計算したものです。
生産に必要な農業をする人の数や種子などは十分あると仮定していることから、
輸入ができなくなったときに実際に作ることができる食べものの量を表したものではありません。

「外国からの食べものの輸入がストップ！」
そんなとき、いったいどうなるの？

農作物は、気候などによって収穫量が大きく変わります。
農作物を輸出している国で不作になれば、日本に輸出できなくなるかもしれません。

レベル0 食べものが足りなくなることが心配されるとき

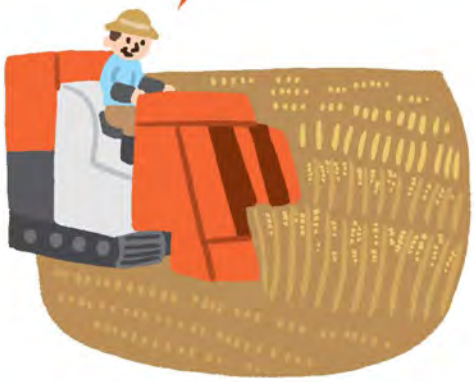
国内や外国の情報を集めて、何が足りなくなりそうかなどを知らせます。国は備蓄している米や小麦などを活用したり、生産者には曲がったきゅうりなど形が悪くて普段は出荷しないようなものも出荷するように呼び掛けます。

情報の収集・分析・提供

規格外品の出荷

レベル1 いつも食べているものが足りなくなり始めたとき

緊急の増産



食べものがピンチになったこれまでの例

平成5年・米

記録的な冷夏や台風、長雨などの影響により、国内で深刻な米不足が発生しました。そのため、中国、タイなどから259万トンの米を緊急輸入したほか、米の価格が高くならないよう注意しました。